

2026年1月11日主日礼拝説教要約

主はキリストを聖別された

(イザヤ49・1～6)

一、イザヤは宗教的天才？

紀元前8世紀に南王国ユダで預言として召され、活動としたイザヤは、宗教的な天才だったのでしょうか。私は宗教的な天才だったと思います。ですがその場合の「天才」とは、私共が普段このことばを使っている意味での天才ではありません。1章1節にありますように、イザヤはまさしく、主からの幻を見せられました。それは、終わりの時代に至る壮大な幻でした。幻ですから、直近のことについては、具体的ですが、遠い将来については、ぼんやりとしたものでした。当然と言えば当然です。

そういう意味で、主がイザヤに直近の具体的な預言から遠い将来の幻を見せられた、という意味において「宗教的な天才だった」と考えています。ただし、イザヤには将来にやって来る時代で、伏せられていたものがありました。それは、神が備えられたキリストによって、信じる者が人種や民族を超えて一つになる時代が来るというものでした。すなわち、教会時代です。

二、主はキリストを聖別された

そういう背景があったことを意識しつつ、テキストに聞いてまいります。1

節です。〈島々よ、私に聞け。遠い国々の民よ、耳を傾けよ。主は、生まれる前から私を召し、母の胎内にいたときから私の名を呼ばれた。〉と語られています。1行目の〈島々よ、私に聞け。〉は何を、あるいは、だれを指しているのでしょうか。実は1行目と2行目は並行法で語られていますから、〈島々よ、私に聞け。〉とは、すなわち〈遠い国々の民よ、耳を傾けよ。〉です。主が語れることばは、イスラエルに限らず、すべての民に語られているというメッセージです。その内容は何なのかと申しますと、3行目、4行目で語られています。〈主は、生まれる前から私を召し、母の胎内にいたときから私の名を呼ばれた。〉と。こちらも並行法で語られていますので、〈主は、生まれる前から私を召し〉とは、すなわち〈母の胎内にいたときから私の名を呼ばれた〉なのです。問題は〈私〉とはだれなのかということです。2節にも〈私〉が出てまいります。〈主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私をかくまい、私を研ぎ澄まされた矢とし、主の矢筒の中に私を隠された。〉と。〈私〉とは、イザヤのことだったのでしょうか。そうであるなら、イザヤのこの預言のことばは、紀元前8世紀のイザヤに縛られてしまうことになりそうです。イザヤに立ち向かう者を前に、〈主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私をかくまい、私を研ぎ澄ま

された矢とし、主の矢筒の中に私を隠された。〉ということになります。ですが1節、2節の〈私〉を、イザヤに同定することはできません。3節にこうあるからです。〈そして、私に言われた。『あなたわたしのもべ。イスラエルよ、わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。』と。3節のことばから〈私〉は、主のもべ、イスラエルであることが分かります。ところが4節です。〈しかし私は言った。『私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした。それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、私の報いは私の神とともにある。』と、イザヤは主のことばを受けました。この預言のことばから、〈私〉はイスラエルを指しているとはいうものの、歴史上のイスラエルには当てはまらないと言えます。特に4行目、5行目の〈それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、私の報いは私の神とともにある〉です。

では〈私〉とは、だれなのでしょう。5節を見てまいります。〈今、主は言われる。ヤコブを自分のもとに帰らせ、イスラエルを自分のもとに集めるために、母の胎内で私を自分のしもべとして形造った方が言われる。私は主の御目に重んじられ、私の神は私の力となられた。〉とあります。〈私〉という、主のしもべであるイスラエルは、ヤコブを、すなわちイスラエルを自分の

もとに帰らせ、イスラエルを、すなわちヤコブを自分のもとに集めるために、母の胎内で形造られたものということになります。言い換えるなら、イスラエルを集めるために、主がイスラエルを母の胎内にいるときに形造られたことになり、意味が通じません。6節になりますと、イスラエルが国々の光となり、地の果てまで、主の救いをもたらす者となる、と語られています。〈主は言われる。『あなたがわたしのもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。』と。

主のしもべ、イスラエルとはだれなのでしょう。残念ながら、イザヤ書の文脈においては分かりません。おそらく、イザヤ自身も分からなかったのだと思います。なぜなら、イザヤには教会時代のことが伏せられていたからです。実は、主のしもべ、イスラエルとは、主イエス・キリストを指しています。使徒パウロは、そのことが啓示によってもたらされたと言っています(ローマ16・25b、26新共同訳)。

主は油注がれた御器である、キリストを聖別されました。これこそイザヤ書に、キリストの光を当てることによつて、見えてまいります。